

2019年度特別支援学校と高等学校との交流及び共同学習実施事業

交流及び共同学習における取組例

県立上野ヶ原特別支援学校

活動の実際（単元名）

園芸入門授業選択生徒との交流及び共同学習（6時間）

障害者スポーツ交流（2時間） 園芸活動交流（2時間）※2時間は中止となった。

指導目標

・互いに協力しながら活動に取り組む中で、コミュニケーション能力を高め、社会性や豊かな人間性を育むとともに、今後の生活に自信と意欲を持たせる。

生徒の実態

対象生徒は、病弱単一教育課程の生徒である。電動車椅子を自分で操作して学校生活を送っている。学習や学校行事等には真面目に意欲的に取り組んでいる。自ら積極的にコミュニケーションをとるタイプではないが、話しかけられると丁寧に受け答えをする。

事前学習

- ・自分のことをよく知ってもらうために、自己紹介の内容を考え、発表する練習に取り組んだ。
- ・一緒に取り組む障害者スポーツ（ポッチャゲーム・棒サッカー）のルール確認を行った。

学習活動（具体的な取組）

支援と留意点

- ①交流活動内容の説明
- ②自己紹介
- ③ポッチャゲーム
- ④棒サッカー
- ⑤両校代表の挨拶

（※は対象生徒に関する内容）

- ・互いの顔と名前が一致するように対面形式で実施した。
※緊張を和らげるために、相手校の男子生徒が隣になるようにした。
- ・ルール説明は、大型テレビを利用した視覚支援や模範演技を取り入れた。
- ・互いに生徒の様子が分かるように、ポッチャゲームは学校対戦とした。
- ・あらかじめ両校の混合チームを編成し、互いに隣り合うようにポジションを配置する等、交流しやすい環境を設定した。

評価

- ・スポーツ交流の前に、自己紹介をして互いの名前や好きなことを知ることで、話をするきっかけを作ることができた。
- ・このスポーツの経験があることと、事前にルールを再確認してから取り組んだことで、抵抗なくゲームに参加し、相手校の生徒にルールを教えることもできた。

活動の様子

- ・障害者スポーツ交流では、相手校から多くの生徒が来校し、はじめは圧倒されている様子が伺えた。自己紹介は、練習していたものの、緊張してメモを読むのが精一杯の生徒もいたが、相手校の生徒が、笑顔で温かい拍手で盛り上げてくれた。ポッチャゲームをする頃には、本校生徒の緊張もほぐれ、ゲームを楽しめるようになってきた。棒サッカーでは、互いに遠慮することなくボールを奪い合い、打ち返すプレーが見られ、大きな歓声で活動が盛り上がった。
※棒サッカーで対戦する前は、相手校の生徒の前で緊張している様子が伺えた。
※生徒代表の挨拶では、しっかりと落ち着いて挨拶を行った。

事後学習

- ・個別授業で感想を聞き、活動を振り返った。園芸交流活動の説明をし、見通しを持たせた。

成果と課題

【成果】

- ・はじめにスポーツ交流を実施したことで、本校生徒は相手校の生徒に慣れ、園芸交流では緊張することなく取り組むことができた。また、相手校の生徒も本校生徒の様子が分かり、生徒同士のコミュニケーションも膨らみ、互いに充実した楽しい時間を過ごすことができた。
※対象生徒は、大人（教師）とのコミュニケーションが中心となってしまうことが多い。今回の交流を通じて、同世代の仲間と好きな音楽等の話で盛り上がったことがとても良かった。

【課題】

- ・2回実施する予定の園芸交流が1回となってしまったことと、スクールバス等の関係で、交流活動時間が短いのが課題である。
※対象生徒は大学進学を目指して頑張っている。卒業後の生活は、活動の場だけでなく人との交流も広がっていくことになる。大学生活を十分満喫できるように、体験の場を多く設定し、コミュニケーション力をさらに伸ばす必要がある。病弱単一教育課程で学ぶ対象生徒の交流活動も、今後考えていきたい。